

松岡和子さんをして、初めての日本女性による全巻翻訳へと突き動かした、読むものを誘う力、ウィル・パワー。ともに、その秘密に迫ってみませんか？ラテン語から英語、そして日本語へ。翻訳の技術が演劇との出会いを可能にしてくれた。でも、それは技術だけではない。翻訳者自身の持つ魅力や生き方、世界を見る目も深く関わっているはず。シェイクスピアだって、ラテン語から英訳された翻訳本を読んで劇作に、役者に、興行主になっていったのです。勇敢にロンドンへ向かった、大学も出ていない田舎者・シェイクスピア。「何でも屋」と呼ばれてからかわれていたそうなの。

何でもやる好奇心にこそ偉大な作家のルーツがあったのでは。松岡さんにも、同じ魂が生きている気がします。大作、名作「ハムレット」の講座は聞き逃さない……

「翻訳家に聞いてみたいよう！」

講師 松岡和子

ウィリアム・シェイクスピア「ハムレット」編

演劇をもっと知って、もっと楽しむ 工夫したシリーズ

——それは、客席からはじまります——

【日時】	5月20日(土) 午後3時〜午後5時
【会場】	穂の国とよはし芸術劇場 研修室大
【定員】	50名
【参加料】	無料
【申込方法】	プラットチケットセンター 電話・窓口 0532-39-3090 (休館日を除く午前10時〜午後7時) オンライン http://toyohashi-at.jp

〔松岡和子(翻訳家、演劇評論家)〕

1942年、旧満州新京生れ。東京女子大卒、東京大学大学院英語英文学修了。95年第2回湯浅芳子賞(翻訳脚色部門)受賞。著書に「もの」で読む入門シェイクスピア(ちくま文庫)「深読みシェイクスピア」(新潮選書)現在「シェイクスピア全集」(ちくま文庫)全巻翻訳中、訳書に「ローゼンクランツとギルゼンスターンは死んだ」(T・ストッパー)「くたばれハムレット」(P・ラドニック)などがある。